

学校教育目標	<わくわく どきどき みんなの笑顔> 自分らしさを生かし、学び合う仲間や地域と共に成長します ○主体的に課題や問題を解決し、思いや願いの実現が図れる子どもを育てます。(知) ○より良いコミュニケーションを図りながら、「豊かな人間関係」を育む子どもを育てます。(徳) ○規則正しい生活を心がけ、自他の生命や健康を大切に子どもを育てます。(体) ○人とのふれあいを大切に、自分たちのまちを愛する子どもを育てます。(公) ○豊かなかかわりを通して、広い視野で物事をとらえる子どもを育てます。(開)				
	創立 42 周年 児童生徒数: 223 人	学校長 清水 康男 主な関係校: 並木中学校 富岡東中学校 並木第一小学校 並木中央小学校	副校長 下川 真智子	2 学期制	一般学級: 9 個別支援学級: 3

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 <言語能力> <コミュニケーション能力> <自分づくりに関する力>	○○中 ブロック 富岡東中学校 並木中学校 並木第一小学校 並木中央小学校 並木第四小学校	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 「聴く力」「発信する力」を身に付けた子ども ・相手(他者)を受け止め、自分の考えを深めていくことのできる「聴く力」を意識し、日々の教育活動を行う。 ・特別支援教育の充実を重点として、自分と相手(他者)との関わりの中で、考えの共通点や相違点を認め、自分の思いや考えを相手に伝えられるように支援する。 ・「あいさつ運動」を通して児童生徒の目を地域に向け、自分と相手(他者)とのコミュニケーションについて考える機会を設ける。
---	---	---

中期取組目標	○教育目標の具現化に向けて、子ども・教職員・保護者・地域が一体となり、「豊かな人間関係」を育み、信頼と愛着がもてる学校づくりを目指します。 ・子どもたちが楽しいと思える学習を行い、豊かな心、健やかな体、確かな学力の育成に努めます。 ・自尊感情や自己有用感を育むことにより、自分を大切に子どもを育てます。 ・多面的多角的な見方や考え方ができる子どもを育て、多文化共生の学校生活を目指します。 ○教職員相互が啓発・連携、協力しながら教師としての資質・指導力の向上に努め、チーム並四として学校力向上に努めます。 ・家庭・地域と連携し、学校支援・地域連携本部「なみよんFANくらぶ」との密な連携を図りながら、子どもたちが安心して学べる学校づくりに努めます。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知 担当 学習指導部	○昨年度の研究で深まりを得た、YPアセスメントの活用を今後も継続し、児童相互のコミュニケーション能力を異学年交流を中心に育てていく。 ○児童理解を学習効果につなげる方策について、重点研究等で深めていく。
徳 豊かな心 担当 人権委員会・道徳部	○人権教育を中心に据えた学校経営を更に充実させていく。 ○これまで向上してきている児童相互の理解をベースとして、異学年交流のあり方を明確にした教育活動の構築を図る。
体 健やかな体 担当 体育・保健・栄養部	○昼休みの活用について見直しを行ったことから、児童相互の交流の時間と健康体づくりの時間にシフトし、健やかな体づくりを実践していく。 ○体育学習の充実については、継続していく。 ○食育については、栄養士との連携を今後も大切にして子どもたちの関心を捉える指導を実践していく。
公開 地域連携 担当 教務部	○学校運営協議会での意見交換が、学校教育活動により大きな糧となるように、問題提起や課題解決を中心とした話し合いを計画していく。 ○地域の教育力を再構築するため、なみよんFANクラブとの更なる接続に向けた職員組織を構築する。
いじめへの対応 担当 いじめ防止対策委員会	○並四小さいじめ防止基本方針をベースにした児童理解に加え、これまでに構築してきたYPアセスメントの活用や児童理解を丁寧に行うことにより、早期発見、早期解決に繋げる。 ○これまで定着してきた職員研修も、児童支援専任を中心に充実させていく。
人材育成・組織運営(働き方) 担当 教務部	○教職員数が減っている中、分掌による分担を均等に行うのではなく、担っている課題や内容によってグループを構成していく。また、グループは固定化せず、場面場面で構築する等の工夫をしていく。 ○グループウェアの活用場面をさらに広げる計画を立案していく。
地域学校協働活動 担当 教務部	○なみよんFANクラブをより活用し、地域の教育力の再発見と再構築を図ることにより、人材の確保に繋げていく。 ○学援隊や地域防災組織等との共同場面を明確にし、安全教育との接続を図っていく。 ○放課後学習のあり方を検討していく。
特別支援計画 担当 特別支援委員会	○特別支援コーディネーターを中心とした組織での対応を今後も継続して行うことにより、児童や保護者が相談しやすい体制を継続していく。 ○年々充実してきた専門機関との連携、接続を児童や保護者のニーズに応えられるよう継続していく。
児童指導 担当 児童指導委員会	○令和6年度は、単級が更に増えることから、児童支援専任を中心とした体制の堅持と、複数で児童指導に当たる体制を構築する。 ○並四小スタンダードの定着が進んできたことから、児童自らが児童会等を通して、楽しく、安心して通える学校を目指す手立てを進めていく。
持続可能な並四教育活動の推進 担当 教務部	○3年計画の最終となることから、リーダーの育成を継続すると共に、子どもたち自らがリーダーを継承していこうとする主体性を育てていきたい。 ○各学年の段階におけるリーダーとしての資質を更に明確にし、